

令和 2 年度
決 算 報 告 書

第9期事業年度

自 令和 2年 4月 1日

至 令和 3年 3月31日

令和2年度決算報告書

(単位：百万円)

区分	予算額	決算額	差額 (決算－予算)	備考
収入				
運営費交付金	1,747	1,734	△13	(注1)
自己収入	274	243	△31	
財産売払収入	7	4	△3	(注2)
農業大学校収入	8	7	△1	
依頼試験手数料収入	1	1	0	
受託研究等収入	239	134	△105	(注3)
その他収入	19	97	78	(注4)
前中期目標等期間繰越積立金取崩	0	8	8	(注5)
合 計	2,021	1,985	△36	
支出				
業務費	479	458	△21	
研究経費	240	325	85	(注6)
受託研究等経費	239	133	△106	(注7)
一般管理費	223	239	16	(注8)
人件費	1,319	1,259	△60	(注9)
合 計	2,021	1,956	△65	

(注1) 退職手当の支給額及び支給人数等が確定したことに伴い、特定運営費交付金収入が予算額に比して13百万円減少しました。

(注2) 生産物等売払収入が見込みを下回ったため、予算額に比して3百万円減少しました。

(注3) 受託研究等の契約期間が年度を跨ぐものは次年度以降の業務終了時に収入を計上するため、予算額に比して105百万円減少しました。

(注4) 受託研究等収入のうち補助金等として収入したものを、その他収入に計上したことに伴い、予算額に比して78百万円増加しました。

(注5) 研究力・技術力の向上等調査研究体制の強化のための前中期目標等期間繰越積立金を取り崩したことにより、予算額に比して8百万円増加しました。

(注6) 前中期目標等期間繰越積立金を財源とした経費や補助金等収入を財源とした経費を研究経費に計上したことに伴い、予算額に比して85百万円増加しました。

(注7) 受託研究等の契約期間が年度を跨ぐものは次年度以降の業務終了時に経費を計上するため、予算額に比して106百万円減少しました。

(注8) 電力調達手法の見直しや外部資金の獲得努力で得た間接経費を活用し、27百万円の経費節減を実現したほか、生物多様性センターの施設管理業務の見直しを図ったことで令和2年度は1百万円の経費節減を実現したものの、老朽化した施設等の整備を早期に対応したため、予算額に比して最終的に16百万円増加しました。

(注9) 退職手当等の支給額が確定したことにより、予算額に比して13百万円減少したほか、業務運営体制の変更を図り、人件費の節減に努めたことにより、予算額に比して47百万円減少しました。